

目次

古典の中の〈世界〉／世界の中の〈古典〉

——土左日記・源氏物語・今昔物語集をめぐる——

(第一五〇回記念講演から)

荒木 浩……………一

方丈記の草庵生活における美文の意義

——「心澄む」に関連して——

岡山 高博……………八

宣長の歌学びの開眼

——『百人一首改観抄』の衝撃——

尾崎 知光……………一九

『永訣の朝』の位相

——宮沢賢治の挽歌をどう読むか——

吉良 幸生……………二三

村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』論

——〈ない〉から〈ある〉へ、〈世界のゆらめき〉をめぐる——

佐倉 明奈……………三六

名古屋大正期文芸雑誌考(四)

木下 信三……………四八

伊勢神宮参詣 松尾芭蕉と西行法師

恒松 侃……………五八

地歌『長等^{ナガラ}の春』の歌詞から

——その古事来歴を尋ねて——

宮川 武治……………七一

俳句 薫風

湯本 明子……………八四

『文久写本狂言集』（愛知県立大学附属図書館蔵） 翻刻 九

狂言研究会……………八五

表紙解説

熊澤 美弓……………一〇二

名古屋市蓬左文庫蔵『続学舎叢書』翻刻（九）

浅井 圭子……………一〇三

あいち国文の会 のあゆみ（九）

……………一一三

江戸時代における「待った」・「待ったり」表現の史的考察

——成立時期、特徴、及び「待ったり」表現の成立過程について——

井上 徳子……………一三二（左1）

編集後記

長谷川 文子……………一三四